

第13期 第16回 鳥取市校区審議会 議事録

- 1 日 時 平成30年5月21日（月）14時 ～ 16時30分
- 2 会 場 鳥取市教育センター 2階 第1研修室
- 3 出席者 **【委員】**
本名俊正委員（会長）、野口淑文委員（副会長）、渡辺勘治郎委員、
長谷川誠一委員、松ノ谷博委員、大村匡由委員、吉澤春樹委員、山田康子委員、
田中弘之委員、森本早由里委員

【教育委員会（事務局：校区審議室）】
中村隆弘次長兼教育総務課長兼校区審議室長、石上直彦教育総務課校区審議室主査、
藪下昇教育総務課学校施設係長、大坪宗臣教育総務課校区審議室主任
- 4 会議次第
 - 1 開 会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 議事録署名委員の選任
 - 4 報告
(1) 第15回校区審議会審議概要について
 - 5 議 事
(1) 江山中校区の学校のあり方について
(2) 千代川以西エリアの学校のあり方について
(3) 次期校区審議会への申し送り事項について
 - 6 その他
 - 7 閉 会

5 議事の概要

事務局

ただいまより、第16回鳥取市校区審議会を開会させていただきます。

なお、本日は、川口委員と牛尾委員よりご欠席の連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。また、吉澤委員さんは、30分程度遅れてこられるということでご連絡をいただいております。

前回の第15回校区審議会では、江山校区の学校のあり方について、2つの答申案をもとに、ご審議いただきました。ご審議の中で、小中一貫校に一度に向かう「B-2案」の方向で答申案をご検討されることになり、会の後に委員の皆様へ修正案をお送りし、やり取りをさせていただきました。本日は、いただいた修正を反映した案をお示ししておりますので、これについてご審議をお願いしたいと思います。

また、千代川以西エリアについては、地域の考えを把握するためにアンケートを実施してはどうかというご意見がございましたが、今回はその方法や内容についてご審議をいただきたいと思います。

さらに、第13期校区審議会の任期が6月27日までということで、残る課題の対応など、次期校区審議会へ申し送る内容やその方法についてご検討いただければと思います。

それでは、会長よりご挨拶をいただき、以降の会の進行をお願いします。

会長

皆さんこんにちは。校区審議会も今回で16回目ということで、多くの回数を開かせていただいておりますが、委員の皆様におかれましてはご出席いただきありがとうございます。来月もごいただきますのでよろしくお願いいたします。様々な課題が次々となります。人口の変動と合わせて、その他様々なことが重なってきておりますので、子どもたちのためにより良い学校、より良い校区のあり方について、さらに検討をお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事録署名委員を選出したいと思っております。名簿順により、山田委員、田中委員、よろしく申し上げます。

はじめに報告事項でございますが、事務局より説明をお願いします。

事務局

[資料説明]

会長

前回の審議会の概要についてご説明いただきましたが、ご不明な点、確認したい点、修正すべき点はございませんでしょうか。

ないようでしたら、次に進みたいと思っております。議事1ですが、江山中校区の学校のあり方について、参考資料をご覧くださいながらお願いしたいと思います。「B-2案」で、一度に一体型の小中一貫校を設立する方向で進めたいと思っております。これまで皆様方にご意見をいただきながら、修正をいたしました答申案をもう一度説明させていただきたいと思っております。これをもとに、議論をしていただければ本日、答申案を最終形としてまとめていただけたらありがたいと思っております。また、前々回の校区審議会以降、地域でも動きがございますが、江山校区での動きについてもご説明いただきながら、ご審議をお願いしたいと思います。それでは事務局から答申案の説明と、江山校区での議論の内容についてご報告をお願いしたいと思います。

事務局

はじめに、地域での議論についてということですが、前回の校区審議会の夜に1回目の会合が開かれるということを報告させていただきました。それから先週に第2回目の会合が開かれたので、この2つを報告させていただきます。

会合のメンバーをご報告させていただきますと、3校のPTAから、神戸小と江山中から2名ずつ、美和小から3名の計7名、学校長が3名、考える会の副会長と事務局長の2名、合わせて12名で開催されました。会の進行はPTA会長が進められ、私の方から校区審議会の審議概要を報告させていただき、その後PTA会長の方からその会を行う趣旨、各PTAでの議論の状況などをご報告され、今後どのように進めていくかということで意見交換されました。引き続き議論していこうということで確認をして、第1回目は終了しました。特に具体的にどのような学校という議論はございませんでした。そして、先週になりますが第2回の会合が開かれ、同じメンバーで意見交換をされました。はじめに、小中一貫校とはどのような学校なのかということ、特にPTAの代表の方からあまり十分ご存知ない方もおられるということで、説明をさせていただきました。その説明をもとに、色々な質問ですとか、意見交換が行われました。最後に、どのような子どもを育て、どのような学校を目指していこうかと

いうことについて感想のような形でおっしゃっておられました。具体的に中学校区で既に考えられている目指す子ども像ですとか、そのようなものもあるということで、次回以降にそれをもとに意見交換をしようということで終わりました。PTA 会長の方から、ここに参加していない PTA の皆さんにも是非、小中一貫校や校区審議会の審議状況について、状況等を報告してほしいということで、3 校の PTA が集まって聞くような会を 6 月上旬に開催してはどうかというご意見があり、今後、日程調整をされます。というように、次の会合までに、一度 3 校の PTA が集まる研修会というものを開催したいということになりました。以上が、地域での議論の報告になります。

[資料説明]

会長

皆さんから事前にご意見をいただいて、答申案を修正した箇所が青字にしております。

江山校区の方で 1 回目の話し合いが行われ、2 回目の話し合いが先週行われたということで、これについて、ご質問等はございませんでしょうか。12 名の委員の方々と運営を始めたということと、情報を PTA の方々にまずは流したいので、6 月になって 3 校の保護者の方々に説明会を開きたいというような動きで、今後の江山校区の学校のあり方について、地域の方々、特に保護者の方々を中心に、動きを進めよう、常に情報を共有しようということで進み始めたということです。ここが非常に大事ではないかと思います。いつも、鹿野地域の取組の報告で、A4 のかわら版を毎回拝見させていただいておりますが、あのような形で地域が情報を共有できれば一番いい形になるのではないかと思います。この会の名称は決まっていないのでしょうか。

事務局

名称は特に設けないと伺っております。

会長

方針が決まれば、教育委員会と一緒に正式な会ができるわけですね。

事務局

どのような形になるかはまだわかりませんが、ここで議論いただいている皆さんには関わっていただけのではないかと考えております。

会長

皆さま方で、江山校区の動きについて何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

そういたしましたら、この答申案についてご審議をお願いしたいと思いますが、前回の審議会後に修正したものを赤字で示し、さらにご意見をいただいたものを青字で示しています。本日ご欠席の委員より、取りまとめをした後にメールをいただきまして、参考資料 4 ページの中ほどですが、「保護者や地域住民に向けて・・・」の部分は非常に重要な文章であるということとともに、主語をどうするかということで、「市教育委員会」が情報提供するのか、「新しくできる組織」が行うのか、あるいは両方が行うのか、主語を入れていただいた方が分かりやすいのではないかと提案ですが、

いかがでしょうか。

委員

ここの「保護者や地域住民に向けて」というのは、私が入れてもらうように依頼したのですが、私の考えとしては、前々段にも「『江山校区の学校のあり方を考える会』の主体性」という文言があるように、考える会が中心になって情報提供を行うという思いです。教育委員会のみが情報提供するものではないと思います。教育委員会が支援することもあるかと思いますが、地域が中心になってという思いで加筆いたしました。

会長

教育委員会が何らかの形で関与すると思いますが、考える会が主体となって地域に情報を常に流すということですね。鹿野地域のような形がモデルになるかと思います。そういう意味では、会の名称があるといいと思いました。

委員

会の名称は、「江山校区学校のあり方を考える会」ということではないでしょうか。この会で集まっておられるのでしょうか。

事務局

その会とは別に、PTA が呼びかけたという形で集まっておられます。

委員

「江山校区学校のあり方を考える会」は解散したのでしょうか。

事務局

解散と言いますか、目的を終えたという形です。

会長

名前があるといいのですが、仮になくても今のところは、学校のあり方を検討する会が主体となつてということではないかと私は思っています。それが伝わればいいわけですので、地域の方々を中心にして、1～2年くらいかけて1～2か月に1回程度情報を流していくということをしていかなないと、地域の皆さんが知らないうちに進んでいくということになってしまいます。名前がないということであれば、「江山校区の学校のあり方を検討している会」というような表現でいいのではないかと思います。教育委員会が情報を流すというのは、地域の主体性がなくなってしまいますので、〇〇委員のお話にありましたように、地域でこういった学校をつくりたい、こういう子どもを育てたいという検討に入りますので、そこが主体となって情報提供も行っていくということはいかがでしょうか。〇〇委員、そういうことですね。

委員

はい。そういうことです。

会長

学校と PTA と地域の代表者の方々が、鹿野で組織されたような会をつくって、運営していくということで、事務局で良い案はないですか。

事務局

3 ページの中ほどに、「学校と保護者、地域が一体となった検討組織を立ち上げ、・・・」という表現がございます。今後、地域で立ち上げられる組織ということで表現されていますので、〇〇委員が言われたような組織に近い形になるのではないかとと思いますが、いかがでしょうか。

事務局

「学校と保護者、地域が一体となった検討組織」が中心となって情報提供を行っていくというように、この3 ページと同じ表現を使ってはどうかということでございます。

会長

「学校と保護者、地域が一体となった検討組織が」という主語を文章の頭に入れさせていただくということで、〇〇委員、よろしいでしょうか。

委員

はい。言葉の並びについてはお任せをいたします。そのような主語がどこかに入れればいいと思います。

会長

「『学校と保護者、地域が一体となった検討組織』は、保護者や地域住民に向けて、進捗状況等の情報を随時提供していくことが、地域に根ざした新たな学校づくりには不可欠である。」ということでいかがでしょうか。もし、多少言葉の言い回しや順序など修正が必要であれば、事務局と私で個々の部分を修正させていただきますが、よろしいでしょうか。

他にございませんか。

委員

そうなりますと、4 ページの青字部分の「江山校区の学校のあり方を考える会」というのも、「学校と保護者、地域が一体となった検討組織」に言い方を変えた方がいいのではないかと思います。

会長

その方がいいですね。「『学校と保護者、地域が一体となった検討組織』の主体性のもとに」と、変更させていただきたいと思います。

委員

「学校と保護者、地域が一体となった検討組織」というのは、コミュニティ・スクールに移行する準備委員会のメンバーということで理解してよろしいのでしょうか。

事務局

コミュニティ・スクールを含めて学校づくりを検討する組織だと思います。

委員

コミュニティ・スクールがいつ指定されるのかわからないのですが、「学校と保護者、地域が一体となった検討組織」がどういう位置づけなのか私の中でははっきりしていないのですが、この組織のメンバーがコミュニティ・スクールの委員にほぼなられるということでよろしいのでしょうか。

事務局

コミュニティ・スクールの委員ではなく、福部・鹿野の時もそうでしたが、教育委員会がこの検討組織の委員を委嘱して、検討を進めていただくような組織になります。その中で、コミュニティ・スクールも導入することを検討されますが、形としては、コミュニティ・スクールに指定するのは、新しい学校の開校以降になると思いますので、福部・鹿野の時も、その検討組織でご議論いただいた方が、何名かコミュニティ・スクールの委員として係っていただいているような形です。ただし、既に美和小学校、江山中学校もコミュニティ・スクールに指定されている学校ですので、そこが今までとは同じ形ではなく、例えば準備期間は3校同時のコミュニティ・スクールの指定になるのか、開校してから一つになるのか、そのあたりはまだ決まっていないと思います。

委員

教育委員会が委嘱するという扱いになるわけですね。

事務局

おそらく今までの形でいきますとそのような形になると思います。

委員

それであれば大丈夫だと思います。

委員

これは、参考意見です。美穂・大和の2人の自治会長にPTA中心の会について尋ねてみました。考える会は、自治会が関係していましたが、今回のこの会はPTAの方から学校関係者とPTAで検討委員会をつくって検討したいのでそれをつくってもいいかという確認があったので、自治会として了解したということです。自治会は、小中一貫校の中身について研究してくださいと言ったということです。したがって、この会は、学校とPTAで選ばれた委員さんで構成されたものだと思います。両自治会長は、そこで検討された結果を伝えてくれるはずだというような受け取り方をされています。

会長

今までであった考える会は、自治会も入っていましたが、その後にはできた PTA を中心にした会は自治会に入っていないので、情報を自治会に必ずくださいということですね。

委員

そのような考え方を持っておられるようです。

会長

やはり情報を常に流していくというように、必要に応じて自治会の方にも集まっていたいて、内容とか経過などを説明していただくことが必要だと思います。それは、やはりその会で怠りなくやってもらう必要があると思います。

答申の中にある「コミュニティ・スクール」の文言はこれでよろしいでしょうか。また、答申の中で、会の名称が違うなど指摘される箇所はありませんでしょうか。他にどこか修正箇所はございませんか。

それでは、本日ご確認いただいた内容で答申を行っていきたいと思います。事務局の方もよろしいでしょうか。

事務局

それでは、再度確認させていただきたいと思います。

参考資料 4 ページの (2) の一つ目の文章 2 行目ですが、「『学校と保護者、地域が一体となった検討組織』の主体性のもとに、市教育委員会が・・・」と修正させていただきたいと思います。

同じく三つ目の文章ですが、「『学校と保護者、地域が一体となった検討組織』は、・・・随時提供していくことが・・・」と修正をするということではよろしいでしょうか。

会長

もし、再度読み直して、語句が不自然であるというようなところがあれば、修正させていただくことにします。それは、私と事務局の方にお任せさせていただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

この答申案についてですが、5 月 31 日に定例教育委員会がございますので、それに間に合うように整えて、私の方から教育長に届けさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。定例教育委員会では、議題になるのか報告になるのか、そのあたりはどうでしょうか。

事務局

5 月の定例教育委員会の前に、会長から教育長に手渡していただく形になるかと思いますが。この教育委員会では、まず受け取らせていただいたという形までで、6 月の教育委員会で審議を経て方針を決定していただく流れになるかと思いますが。

会長

6月に決定すれば、江山校区でも本格的に動き出すということですね。そのようなスケジュールになりますが、江山校区については昨年からの現地視察も含めて随分長い間ご検討いただきました。今のところ、江山校区にも学校が残ることになりますので、地域の発展も含めて意欲的に新しい学校づくりに取り組んでいただけたらいいなと思っております。ありがとうございました。

それでは、議事2に入ります。「千代川以西エリアの学校のあり方について」ですが、前回は具体的な課題解決の一覧についてご検討いただきました。4つの色々な案をご検討いただきましたが、いずれにしても、地域の意向が分からないということで、何らかの形で伺う必要があるだろうということになりました。どういう形にしたらいいかということで、色々ご検討いただきましたが、千代川以西エリアは、町内会自体がない場所もありますし、町内会に入っていないという方々も多く、なかなか全体を把握するのは難しいのではないかと思います。そうなりますと、出かけて行って意見聴取をしてもなかなか難しいかなと思います。したがって、アンケートを実施した方がいいのではないかと思います。もし、アンケートをするのであれば、どのような内容で、どのように回収するか、対象をどうするか、そのあたりでなかなか難しいところがあります。本日は、そのあたりを含めてご検討いただきたいと思っています。本日は資料を付けておられますが、まず事務局より説明をお願いしたいと思っております。また、千代水地区では別途、アンケートを行っておられ、集計に入っておられるようです。そういったことも考慮させていただきながら、どのようなアンケートで、どのような範囲で、どのような回収方法で行うかということについてご意見をいただきたいと思っております。それでは、資料について説明をお願いします。

事務局

[資料説明]

会長

千代川以西エリアについては、小学校をもう一度作ってほしいという陳情もあったようですし、第12期校区審議会以前から課題であり、答申は出すのですが、なかなか実施はできないということで、長期的に課題として引き続き残っているわけです。13期でも、検討したのですがなかなか大きな課題で、安全面だけでなく児童生徒数の増加の部分もあり、決めかねてきています。現場も見てください、安全面では橋を渡らない方がいいのですが、中学校のこともありまして、簡単にはいかない部分もあるかと思います。これからご意見をいただきたいと思いますが、一つは、千代水地区でこの4月に実施されたアンケートの内容と結果も踏まえて、中身を検討した方がいいのではないかと思います。もう一つは、我々の任期があと1ヶ月ですので、様々な議論を進めて色々なご意見を出していただくことはできるのですが、実際にアンケートを取ることについては、もう少し慎重な審議をお願いして、課題解決について次期に申し送るしかないのではないかと思います。今回は、安全面の内容だけですが、どのような内容を盛り込めばいいかということのご意見を伺いながら、これからの検討をさらに進める材料にできればと考えています。調査の対象をどうするか、配布の方法をどうするか、内容をどうするか、そのあたりをまとめてご意見を伺いたいと思っております。

委員

資料のアンケート項目を見たとき、全世帯を対象につくられているのかなと思いました。私は、もちろん、全世帯に聞いた方がいいと思うのですが、まずは、小学校と中学校に通っておられる子をお持ちの保護者に率直な意見を聞いてみるというのが一番の大きなポイントとなりますし、回収もしやすいと思いますので良いのではないかと感じた次第です。アンケート項目ですが、八千代橋を渡ることについての質問になっていますが、PTA を対象とした場合には、通学時間の問題も組み込んだ方がいいと思います。最近、中学校は6時半過ぎまで頑張っているのですが、千代川以西エリアの生徒さんは八千代橋を渡るのが7時を超えているのではないかと思います。その時間に、一人で通学路を帰るとするのは、安全面はどうなのだろうかと思います。最近、新潟であのような事件が起こったのですが、私たちが小さかった時よりも不安定な社会になっていますので、長い距離を歩かせなければいけないのかといったことも、問うてみるということも大切かと思います。通学時間の問題についてもどうお考えかということも入れてはどうかと思います。

私は、まずはPTA 対象で良いのではないかと思います。全世帯まで広げると、どこまで地域の方にこの考え方が浸透できるかどうかということと、回答率がどれくらいになるのだろうかと考えたときに、多分ものすごく低くなるのではないかと思います。未就学児を持つ保護者についても、今後のことを一生懸命考えておられるので、問うてみるのも良いとは思いますが、まずは小学校と中学校のPTA を対象にした方がよいと考えます。

委員

まず、自治会のアンケートの詳細をお伝えしたいと思います。あくまでも千代水地区のアンケートなので、城北小だけでなく、世紀小や賀露小の校区にもアンケートが配られています。安全面を聞くというよりは、将来の小学校はどこがいいか、中学校はどこがいいかというアンケートでして、今のままがいいのか、別の学校がいいのか、それとも新設の学校がいいのかといった形でアンケートを取っております。アンケートの記入は、どなたかが書いてもいいとしているのですが、アンケートは回覧板での配布になるので、おそらく一世帯一枚くらいしか書いていないのではないかと思います。子どもさんに聞いたりもできるようなアンケートにしていたのですが、各世帯一枚ずつしか結果が返ってきていないと思います。ただ、町内会に加入していない人も多いですし、子どもがその町内会にいますので、町内会に加入しておられない保護者も千代水地区にはかなりおられますので、私の感覚では、地域の方のアンケートとしては成り立つのですが、保護者の方の意見はこのアンケートではあまり吸い上げられないのではないかと思います。したがって、校区審議会でもアンケート取るのであれば、PTA や未就学児を持つ保護者、できれば小中学生にも聞くというのが良いのではないかと思います。仮に全世帯を対象とした場合、町内会がない、あるいは町内会に加入していない方に、子どもについて安全面はどうですかと問うても、回答しないか、わからないという回答でしか返ってこないのではないかと思います。私の感覚では、あまり参考にならないのではないかと思います。できれば、地域の意見は地域に出したアンケートで確認していただき、校区審議会としては、PTA や未就学児を持つ保護者を対象にすればいいと思います。

項目については、校区審議会としての問題点は、やはり安全面ですので、安全面のことを聞くということで良いのではないかと思います。

委員

一つ、私の中で言えることは、先ほど〇〇委員が言われましたが、当事者である児童生徒が八千代橋を渡ることについてどう思っているのか、これは問うてみたいと思います。ただ、その回答は保護者と違っているということもあると思います。

項目については、安全面を問うて、安全面から私たちは何を知りたいのかということを考えています。このままの校区でいきたいと思われる方は、このくらい大丈夫だということでも回答するのですが、私たちはそこも知りたいのではないかと思います。このままの校区でいい、あるいは安全面を考えると校区の再編の仕方は別問題としても今のままではよくないのではないかと、というようなことを知りたいのか、もう少しその先を聞いてみる項目もあってもいいのではないかと思います。

対象については、私は全世帯がいいのではないかと考えていたのですが、全くこの課題に関係のない方が入ってくる余地があるのだなということで、何が何でも地域に根差した意見を集約するというとは少し線引きをしないといけないのではないかと考えています。学校づくりをどうしたいのか、どんな子どもを育てていきたいのかといった一貫校や統廃合に絡む問題ではないので、そこは少し線引きをした方がいいのではないかと思います。

アンケート結果によって、答申の内容が流されてはいけない面もあるかと思います。例えば、安全面に全く問題がないという答えが多かったとして、質問項目を少し増やした時に、この校区編成で良いという意見が多数あったとしますと、再編をせず現状維持とするということでもないような気がします。では、なぜアンケートをするのかといった時に、やはりそういう意識が高かったり、低かったりするという人の思いを受け止めておいて、それに対して、言い返せられるだけのものを準備しておかないといけないと思います。そのために、その思いや実態把握を数字のみならず、アンケートから読み取って説明責任を果たすというか、そこに必要なアンケートなのではないかと思います。したがって、校区審議会で、学校づくりについて色々と思いや願いを議論されてきましたが、それとは少し区別を図るような内容になるのではないかと思います。

会長

アンケートをするかどうかを含めて、正直なところ非常に難しい部分があります。〇〇委員がおっしゃられたように、アンケートをして多い方がいいことが良いとは限らない部分もあり、そのあたりを校区審議会、教育委員会が大所高所で判断せざるを得ない内容があるわけで、長い間結論が出ずに引っ張っている部分もありますので、どこかで地域の方々の思いを引き出せるような内容の調査と、それはそれとして結論はこうあるべきだということになるかもしれません。必ずしも意見に流されない形での結論というものもあり得るだろうと思います。アンケートというのは、裏と表の部分があり、そのあたりを十分に承知した上で、項目や対象を決めていかないと、アンケートの結果を盾におかしいのではないかと結論に我々が達するかもしれませんが、子どもの将来、鳥取市の学校のあり方を考えながら最終的には結論を出していかざるを得ないと思います。今回、結論はなかなか出にくい部分はあるのですが、何らかの手立てを考えていきたいと思っています。

委員

今まで長い時間がかかっているのは、自治会の絡みがあるからだと思っています。長いスパンでの計画を立てて、適正規模であるとか安全な通学路であるとか、学校の適正配置等を考えて、校区を再編成しますという大前提を出しておいて、アンケートをするという方法をとってはどうかと思います。

アンケートをしないと、意見を聞いていないと言われますので、今の城北小の適正規模や安全性にも限界が来ているので、何年までに校区編成を行いますという大前提でアンケートをすればいいと思います。それであれば、全世帯に聞いておいた方が良く、アンケートをした後に、PTAの方の意見や未就学児を持つ保護者の意見など、分類をしていけばいいと思います。その中で、教育委員会なり、首長の行政判断で結論を出すということがいいのではないかと思います。

会長

未就学の学校に行っていない家庭にも聞くということですね。

委員

それはなぜかという、そこに住んでおられる方には地域住民としての意識があります。学校区での学びというのが、地域住民の意識の中にあると思います。通学面だけでなく、自治会の枠についても聞けるので、全世帯を対象とした方がいいと思います。ただし、安全面だけでなく、自治会の枠も含めて質問をきちんと考えた方がいいと思います。

会長

全世帯に聞いて、返ってきたものを分類していけばいいということですね。項目などについては何かありますか。

委員

項目としては、対立している意見がどういうものかを明確にするために、北中校区と他の校区との意識の違いというものも聞けたら聞いておいた方がいいのではないかと思います。校区の枠を超えたすごい意見があれば、それを正していけると思います。

副会長

保護者が安全だと思わないというより、基本的に我々が考えても小学生が雨風の中、川を渡ること自体を安全だとは思わないわけです。前回の資料の案1の課題の部分にも、「千代川を渡ることの客観的危険性を示す必要がある」とありますが、危険性そのものが客観的なものだと思います。したがって、川を渡ることが安全か安全でないかアンケートで問う必要性を私としてはほとんど感じません。案1の結論になると、反対する立場として、大きいのは校区だろうと思います。児童生徒数の平準化や危険性を考えれば単純に千代川でわければいい話を、北中に行けるか行けないということが、難点で決まらなかったのではないかと思います。アンケートの中で、安全面について聞かれるのはいいと思うのですが、千代川で分けて校区再編するのはどうですかというアンケートの方がむしろいいと思います。

委員

PTAにアンケートをされるのが無難であるとは思いますが、現在小中9年の保護者も、時が経てば変わっていきます。校区再編がなされるまでに相当な年数がかかるのであれば、これから小中学校に入られるの方が、対象としてふさわしいのではないかと思います。ただ、現在通っておられる子

を持つ保護者の考えが、北中に行けるとかというものが根底にあるのであれば、アンケートで危険と思われるでも危険でないと回答される方がおられるのではないかと思います。おそらく、このアンケートを受け取れば、すぐに校区問題であるということがわかるので、千代川以西の方であれば北中に通いたいのであれば、反対にしておこうという方が何割か出てくると思います。本当の気持ちはなかなかわからないと思います。例えば、他の学校が建つのであれば良いというような具体的な選択肢を入れて、安全性を問うこと以外の項目も入っていないと少し判断もしにくいということがあります。今は、千代川を渡らない方がいいという意見が多いと思いますが、それをしてもらうためにはどうしたらいいかということがわかるような選択肢が入ってくれば一番いいと思います。世帯に配られても誰の意見かわからないということがありますので、例えば家族の中で他の意見がありますかという欄があれば、一枚の用紙でも家族の複数人の意見が聞けると思います。全世帯でも、回覧を受け取られた方が大抵回答してしまうので、家族の意見はどうかという部分が入るようなやり方が考えられないかと思ったところです。

委員

対象としては、全世帯でいいのではないかと思います。保護者に聞くのが回収率も良いでしょうし、早いのですが、長年懸案事項になっているということもありますし、これまで八千代橋を当たり前のように渡っていた子どもたちが、もしかしたら渡らなくなって他の学校に行くというのも地域の方はどうかと思われるでしょうし、長年懸案になっているということをアンケートの文章の中に入れておいて、実際はどのように思われているかという実態把握というか、意見を吸い上げるという意味では、それが判断基準になるかということも置いておいて、全世帯にアンケートを行えばいいと思います。回答者に年代別というのがあるのですが、プラスして保護者であるとか、未就学児のいる家庭とかわかるような項目もあれば、集計の時の参考になるのではないかと思います。

委員

対象としては、全世帯がいいのではないかと思います。アンケートにどれくらいお金が使えるのかということもありますが、十分に予算があるのであれば、全戸に郵送して返してもらうという方法がありますし、数を限定するのであれば、階層を無作為に抽出して行えばある程度押しなべて意見が聞けるのではないかと思います。あまりお金をかけないのであれば、PTA や子どもたちに持って帰ってもらって書いてもらう方がいいと思います。

内容については、方向性を見出したいがためにどうしても誘導型の質問になりがちになるのですが、そのあたりが難しく、今のところ具体的な案というのはありません。

委員

私も、今のアンケート項目でしたら、八千代橋を渡ることだけの安全面がクローズアップされているので、この裏に校区再編成があるということをもう少し色濃く出してしまっ、東側や他の学校区も含めた全体的な考え方のアンケートにした方がいいのではないかと思います。ドーナツ化現象で、減っていく学校もあれば増えていく学校もありますので、そのあたりは明確にして再編成ありきのアンケートをした方がいいのではないかと思います。東側も小学校によっては少なくなっている小学校もあるので、全体的なバランスを見るために、今から10～15年後は再編成で変わるということを書いてしまっ、アンケートの項目を考えたりしていく方がいいのではないかと思います。私たち13期

は、何も決まらないまま 14 期に引き継ぐ形になってしまうと思いますし、14 期の方も、またすごく大変な問題だということで先送りになるのであれば、10～20 年後と決めてしまって、そこには必ず再編成があるという形でアンケートをした方がいいのではないかと思います。

会長

早かれ遅かれどの学校もそうだと思いますが、大規模校の課題、また、特に小規模校はこれから増えていきますので、今のままの校区ではいけないということを知ってもらった方がいいということですね。それから、城北小の西側だけでなく、東側の方にも広く現状を知ってもらうということですね。

皆さんからご意見を伺いましたが、様々なご意見があり、なかなか結論が出せる状況ではありません。ただ、どこの学校も課題で、中心市街地においても歴史のある学校が小規模になってくる可能性があります。また、マンションが 2 つ 3 つ建てば、一気に子どもが増えるということもあり、なかなか先が読みにくいところもありますが、今までどおりの校区でずっとやっていけるわけではないということは、確実な話だと思います。そのあたりは、承知していただきながらということがありますが、どのあたりまで対象を広げていくか、どういう項目にするか、もう少し皆さんのご意見をいただきながら、皆さんのご意見をまとめて次の会である程度まとめて、次期に検討をお願いしたいということに進めたいと思います。アンケート実施するとなるともっと詰めないといけないと思います。安全面の問題と、もう一つは北中という校区の問題があって、ここが保護者にとっては難しいところだと思います。もちろん保護者だけの問題でもありませんし、そのあたりをどのようにして地域全体で進めていけられるかというところです。

委員

前にも申し上げましたが、切羽詰った問題はキャパシティが一杯一杯で、たまたま今の 5 年生が 4 年生の時は 4 クラスだったのですが、転出があって 3 クラスになりました。それで空き教室が一つあります。しかし、5 月 1 日までに転入生が 1 人来たら、また 4 クラスになるという状況でした。どの学年も一杯一杯なので、おそらく来年度は空き教室はなくなると思います。つまり、八千代橋を渡らせるか渡らせないかの安全面よりも、もっと差し迫ったキャパシティがオーバーになるということで、アンケートを取るとすればそこも出していかないといけないのではないかと思います。今の城北小学校の切羽詰った課題も言っていないといけないのではないかと思います。

会長

今年は何とか大丈夫であっても、来年以降はいずれにしても厳しい状況になってきます。そうなる千代川西側だけの問題ではなく、東側も場合によっては変更しないと学校自体が持たないといった状況にもなります。プレハブという方法もあると思いますが、プレハブの児童だけでなく全校児童にとってもなかなか大変な状況になってくるということです。そうすると、東側のどこかの町内を一部変更してでも、北中の問題もありますので北中に行ける学校に線を引き直すということも必要ではないかと思うのですが、それは簡単にできないのでしょうか。プレハブというのは予算があればできるわけですが、児童の教育環境としては決していいわけではないので、減らすという工夫をどこかでしないといけないと思います。

委員

美保小の大規模化の問題もあります。大規模の学校を運営する問題というのも出てきてしまいます。この際、大規模の課題に対応するにあたっての大前提というものをつくり、行政判断していかねばいけないのではないのでしょうか。

会長

アンケートで聞いたとしても、結論は出していないといけないというようなスタンスを持っていないといけないかと思います。

委員

難しいのですが、いい行政判断になるようなアンケートをしないといけないと思います。

会長

例えば城北小の児童に、他の小学校に行っていただくような線引きというのが、この場ではしにくいのですが、このままでは増える一方になってしまいますので、何かそのような資料を出していただいて、そういうことも合わせて検討していかないといけないかもしれません。

委員

おそらく喫緊は、校区再編の答申を待てる状況ではないので、応急処置的に今の校舎等をどう修繕していくのかということになるかと思います。それは2~3年後に必ず来るとは思いますが、そこまでに校区審議会が答申を出して、校区再編をするというのは考えづらいかと思います。

会長

校区の変更というのは、長い歴史があって安定して続いているのを変更するわけですので、相当な根拠と事情等を説明していかないといけないと思います。いずれにしても、正常に運営しにくい状況が続いていますので、どこかで減らす方法を考えていかないと考えています。

ちなみに南中学校は、増築という方針になっているわけですが、そちらの方は進んでいるのでしょうか。

事務局

現在は、実施設計段階です。来年度から工事に入りますが、生徒数のピークまでには間に合わすようなスケジュールで進めていますが、仮に生徒数増加のペースが予想を上回って受け入れが間に合わないということになりそうでしたら、何らかの対応は必要であると考えています。

今回の増改築によって増やす教室数についても、実施設計段階ですので、学校の意見も聞きながら特別教室も含めて決めさせていただく予定です。

委員

例えば城北小学校の古い2階建ての校舎を3階建てにするということはあり得るのですか。

事務局

確認が必要ですが、ただ単純に2階建ての校舎の上に増築するというのは、おそらく構造上難しいところが出てくると思います。

会長

いずれにしても今のペースで城北小学校の児童が増えていくのであれば、どこかで校舎を建てるか、増築するか、校区を変更するかしかならないと思います。千代川以西だけで済む話ではなくなるかもしれませんし、西側だけを変更するというのも様々な意見があると思いますので、場合によっては東側も含めて変更していかないと難しいかもしれません。

今の状況ですと、千代川以西については、もう少し協議をして、申し送りにせざるを得ないと思いますが、それでよろしいでしょうか。次回にもう一度、本日の協議を含めて、もしアンケートをする場合の中身を含めてご意見を伺って協議したいと思います。それを14期につなげていきたいと思います。

それから、大事なポイントを明確にするということが必要かと思えます。一つは、安全性の問題、もう一つは、中学校との校区の絡みです。さらに、城北小の校舎のキャパシティの問題をどう解決するかということです。増築するという方法や、当面は改修を行うという方法もあるかもしれませんが、いずれにしても校区の再編がどうしても必要になるだろうと思います。これは、場合によっては、東側も含めて一部を変更するというのも検討が必要かもしれません。例えば、城北小から同じ北中校区の久松、遷喬に一部移すことができないのかどうかというようなことです。

ただ、地域の意見をお伺いしないといけないと思いますので、それは実施するという方向で、行政的な判断を最終的には仰ぐ必要も出てくるかもしれません。この件については、もう少し継続審議ということで、次回以降お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局

すみません。もちろん、それでよろしいかと思えます。今回、アンケートの案を出しておりますが、前回に〇〇委員より、そもそも安全性について率直に地域の方がどう考えていらっしゃるのか知らないといけないのではないかというご意見があったかと思えます。その中で、校区問題とは別の話として、そのあたりをどうお考えになるかということを知りたいということを念頭にお示したところです。

ただ、このようにお示しはしておりますが、もちろんこれ以外にも様々な項目が考えられると思います。そのあたりを、今回ご意見として聞かせていただきたかったところでもあります。皆さんがおっしゃられるように、安全面だけでなく、校舎のキャパシティや歴史的な部分を見ないで千代川を渡るか渡らないかということだけをずっと言い続けるかどうかということもあると思います。その辺を踏まえると、先ほど会長が言われたように、難しい問題は出てくるかもしれませんが以東も含めた校区再編についての議論もあるでしょうし、今期の審議会でおそらく今のことを含めての議論をすべて行うことはかなり難しいだろうと思います。また、最終的に行政が判断しなければならない部分もあるかもしれません。

前回、アンケートは必要だろうということが、皆さんのご意見でありましたので、アンケートのあり方についても慎重にすべきだというような意味のことを、決して先延ばしということではなく、申し送っていただく形になるのではないかと考えています。アンケートをやみくもに取れば良いという

ことではなく、こういったことには留意しながら実施しないといけないということを、ある程度、委員の皆さんに出していただいて、それを申し送るというような形ではどうかと思います。

したがって、今、お示したアンケートをそのままやりましょうということではなく、前回の会議を受けて作成したものですので、何を申し送るのか、どの部分をしっかりと伝えていくのかということを決めていただきましたら、次の審議会では何が問題かということをよく考えられた上で千代川以西エリアの課題についてご検討を進められるのではないかと考えています。

会長

そうですね。このままですと、次期校区審議会も困られると思いますので、ポイントをしっかりと決める必要があるかと思っています。また、早急に地域の方の考え方を集約し、それとは別に、城北小の児童数増加の課題を解消する方法を明確に出していくことも必要です。今は、城北小の課題だけをお話しているわけですが、他にも児童数増加の学校もあるわけですので、全体を見ながらということもどうしても必要になってくると思います。どこかで全体の表を見ながら、より良い教育のためには、あまり少なすぎる、あまり多すぎるということは、良いことではありませんので、適正にしていく方法を早め早めにとっていく必要があるかと思っています。建物を建てるとなると数年かかるわけです。それから、今までどおりにはなかなかいかないで校区が変更になることもあり得るということを知っていないといけないかと思っています。そういう意味では、「中間まとめ」は各家庭でも見ることができる状況でしたので、少しずつ浸透はしてきているかと思いますが、そのような情報を常に流すということは重要であるかと思っています。

今回はもう少しポイントを決めて、全世帯の意見を求めるとか、安全性についてだけでなく現在の城北小の児童数増加の状況を認識してもらい、そのようなことを含めてアンケートに答えていただくことが必要ではないかと思っています。長年、解決していない課題でありますので、アンケートを早急に進めていただいて、それをもとにしながら次期校区審議会でも検討していただきたいと思っています。

事務局

会長と〇〇委員から質問があった「校区再編はすぐにできないものか」ということについてです。例えば、今回のように校区を割って別の学校にするとした場合には、基本的には今通っている子どもは、継続してその学校に通えるようにといった配慮をして、長い時間をかけて校区再編を行っていった経緯があります。例えば、以前、城北小から分離して中ノ郷小ができたときは、新しい学校ですので、全員が中ノ郷小に行くということでしたし、美保小から美保南小が分離したときも全員が美保南小に行くということがすぐにできたのですが、校区の割り当てを変えて別の学校というのは、やはり時間がかかるかと思っています。そういった意味では、美保小の話もございましたが、議会の中でも、校区再編は長い視点では必要ではあるのですが、当面は施設の改修で対応していくことになるということでお答えをさせていただいております。仮に校区再編が決定したとしても、当面は子どもの通学について配慮などを行いますので、やはり時間がかかるかと思っています。岩倉小と宮ノ下小の校区再編の時も、多くの在校生の方が引き続き卒業まで通いたいということを選択されたように把握しています。また、在校生だけでなく、その兄弟も配慮しますので、完全に校区再編されるのに12年かかったと聞いています。

会長

わかりました。

次回、もう一度ポイントを決めて、申し送り事項の中に入れるということで、アンケートの詳細は次期に決めていただくことになると思いますが、その中身としては、現状で城北小の校舎のキャパシティが限界に近づいてきていることもアンケートの前書きにでも入れて認識してもらった上で、安全性とか北中など校区の問題も含めて住民の考えを調査するというので、なるべく全世帯を対象に、年齢とか児童生徒がいるかないかを含めて、あとで色々なことが検討できるような工夫をしてほしいという申し送りになるかと思います。本日は内容についての議論はなかなかできませんでしたが、次回、その内容についてもご意見を伺って、申し送りのまとめとしたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、「議事3 次期校区審議会への申し送り事項について」に入ります。この審議会の任期が、6月27日までですが、中間まとめでも指摘しましたが、課題のある学校区の解決に至っておりません。我々の審議会の議論を踏まえて、次期以降の校区審議会に何らかの形で、検討すべきポイントのようなものを申し送る必要があるかと思います。今回、第11期と第12期の申し送り事項を資料としてご提示しておりますが、そのスタイルについてかなり違いがあります。まずは、その内容について事務局より説明をお願いします。

事務局

[資料説明]

会長

できましたら、第11期のような形で、審議経過と申し送り事項という形でまとめてはどうかと思いますが、そのような形でよろしいでしょうか。次期校区審議会への申し送り事項としては、今までの流れをまとめた形で、項目や番号を振ってまとめていき、中間まとめの一覧表を付けてはどうかと思いますが、どうでしょうか。事務局に原案を前もって送っていただき、それをもって審議して修正をかけていくということでどうでしょうか。中間まとめの一覧表をご覧いただきながら、申し送り事項のまとめ方についてご意見がありましたらお願いします。

委員

スタイルとしては、中間まとめの一覧表と第11期を合わせたような形が良いのではないかと思います。この一覧の中に入っていない、ここまで議論したという経過も入るといいのではないかと思います。

委員

中間まとめの一覧表と第11期を合わせたような形で良いと思います。

委員

語句の説明が一覧表の裏についていますが、コミュニティ・スクールや義務教育学校についても説明があると良いと思いました。

委員

私も中間まとめの一覧表と第11期を合わせたような形で良いと思いました。

委員

私も同様の意見です。

副会長

根本的なところですが、この審議会の委員は6月で全員が変わることになるのでしょうか。

事務局

基本的には、新しい委員さんということになります。色々なお立場で出ていただいている方もおられますが、例えば校長会であれば、そちらの方にご推薦をお願いするという形になります。公募の委員さんにつきましては、改めて募集させていただくということになります。また、学識経験者の委員さんにつきましては、個別にご相談させていただくことになります。

副会長

毎回変更となりますと、議論が進んでは戻りということも心配をしますが、そのあたりはこれまではどうでしたか。

事務局

基本的には、新しい委員さんということになります。公募の方と、小中の校長会とPTA連合会の方については、推薦をいただきますので、こちらはどうしても新たな方になりますが、12期までの委員さんについては、学識経験者の方は引き続き委員をお願いしていた経緯がございます。13期は新しく多くの委員さんをお願いしておりますが、それまでは継続性というものも考慮させていただいておりました。

副会長

わかりました。申し送りの形態は、中間まとめの一覧表と第11期を合わせたような形で良いと思います。

会長

現在の委員が大きく変わるかわからないかはわかりませんが、次期の方が分かりやすい申し送り事項をつくっていきたいと思います。よろしく申し上げます。

委員

校区審議会としては、一覧表のエリアごとに課題を並べていてもいけないのではないかと思います。

基準をざっと書いておいて、基準に合致しているか合致していないかそのエリアを後で並べていく審議の方がいいのではないかと思います。自治会や、住んでいるところで議論をしているので、埒がわからないのだと思います。

委員

特にはございません。今回、アンケートの案を具体的に示していただき、より一層何をしなければならなかったのか、ありがたかったです。前回に、アンケートが必要だということで、案であったとしても、事前に配られて議論できたのは良かったと思いました。

委員

細かいところで、校区が問題となっているところは解決していつているので、今後は基準に照らして長期的な視野で将来の予測も含めて解決していかないといけない問題もあるのではないかと思います。申し送りとしては、もう少し長期的なものなのか、基準を順守するような方向に移行するというようなものにしてはどうかと思います。この一覧表を作成した時に、あえて優先順位を付けなかったと思うのですが、それは、それぞれに課題があるし進捗状況も異なるからということだったと思います。しかし、議論する中で課題が多いものは、時間をたくさん割いてもらいたいと思いますので、重要ところは示した方がいいのではないかと思います。

委員

私も皆さんが言われたように中間まとめの一覧表と第11期を合わせた形で申し送りをした方がいいと思います。私たちは、この一覧表をもとに議論してきたということもありますので、引き続き今の流れを汲んで審議をしてほしいということでもよろしいかと思います。逢坂小校区から要望書が出てきていますので、次期の早い段階から丁寧に議論していただきたいと思います。

会長

逢坂小には私たちもお伺いしましたが、その後どのように審議をされているかという問い合わせが事務局の方にはあるようです。それに関連して、気高全体の動きをご説明していただけますか。

事務局

気高中校区には4つの小学校がございますが、その中の逢坂小校区から要望書をいただきました。残りの3小学校区について説明させていただきます。既に報告しておりますが、瑞穂小校区では、考える会が立ちあがって、これまで3回、会議が開催されています。残りの浜村小校区と宝木小校区はまだ考える会が立ちあがっておりません。宝木小は今年度、複式学級が発生しており、逢坂小と同じでまさに早急な解決が必要な学校になりました。気高町の地域振興会議に「中間まとめ」の説明に伺った時に、全ての校区で考える会を立ち上げていただきたいと考えておりますということを、お伝えいたしました。今月25日に、宝木小学校のコミュニティ・スクールの学校運営協議会がありまして、「中間まとめ」の内容と、地域で考える会を立ち上げていただきたいという説明に行きたいと考えています。なぜ、学校運営協議会かと言いますと、宝木小校区が、宝木と酒津の2地区あるということ

で、学校を通じて一つの考える会を立ち上げていただいた方がいいのではないかと考えているためです。浜村小校区でも学校運営協議会で、支所よりこのようなことが議論されているということを報告させていただいておりますので、また改めて機会をいただいて浜村小校区でも検討組織を立ち上げていただくように説明をして、4つの考える会が立ちあがりましたら連絡協議会のようなものを立ち上げていただき、気高中学校区全体でどのように進めていくか確認し合いながら、方向性を検討していただくようにと考えています。

会長

地域で考える会を立ち上げていただきながら、早期に気高全体でどのような要望があるのかを含めて次期に検討していただくことになると思います。逢坂の方は、どうなっているのだろうかという思いが強いと思いますので、それに応えるような動きをするために、支所や教育委員会事務局を通じて情報を流していただきたいと思います。そういったしましたら、ただ今のご意見を取り込ませていただきながら、次期の申し送り事項の原案を作成いたしますので、事前にお送りをして、それを次回に修正をしていきたいと思います。

以上で、本日の議事は終了といたしますが、その他、委員の皆様より何かございますか。よろしいでしょうか。

次回は13期最後の校区審議会になると思います。開催日時について調整をさせていただきたいのですが、会長としては、6月26日火曜日14時からお願いできたらと思います。よろしいでしょうか。

それでは、進行を事務局へお返しします。

事務局

慎重なご審議をいただき、ありがとうございました。以上で、第16回鳥取市校区審議会を閉会します。

平成 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 山 田 康 子

署名委員 田 中 弘 之